

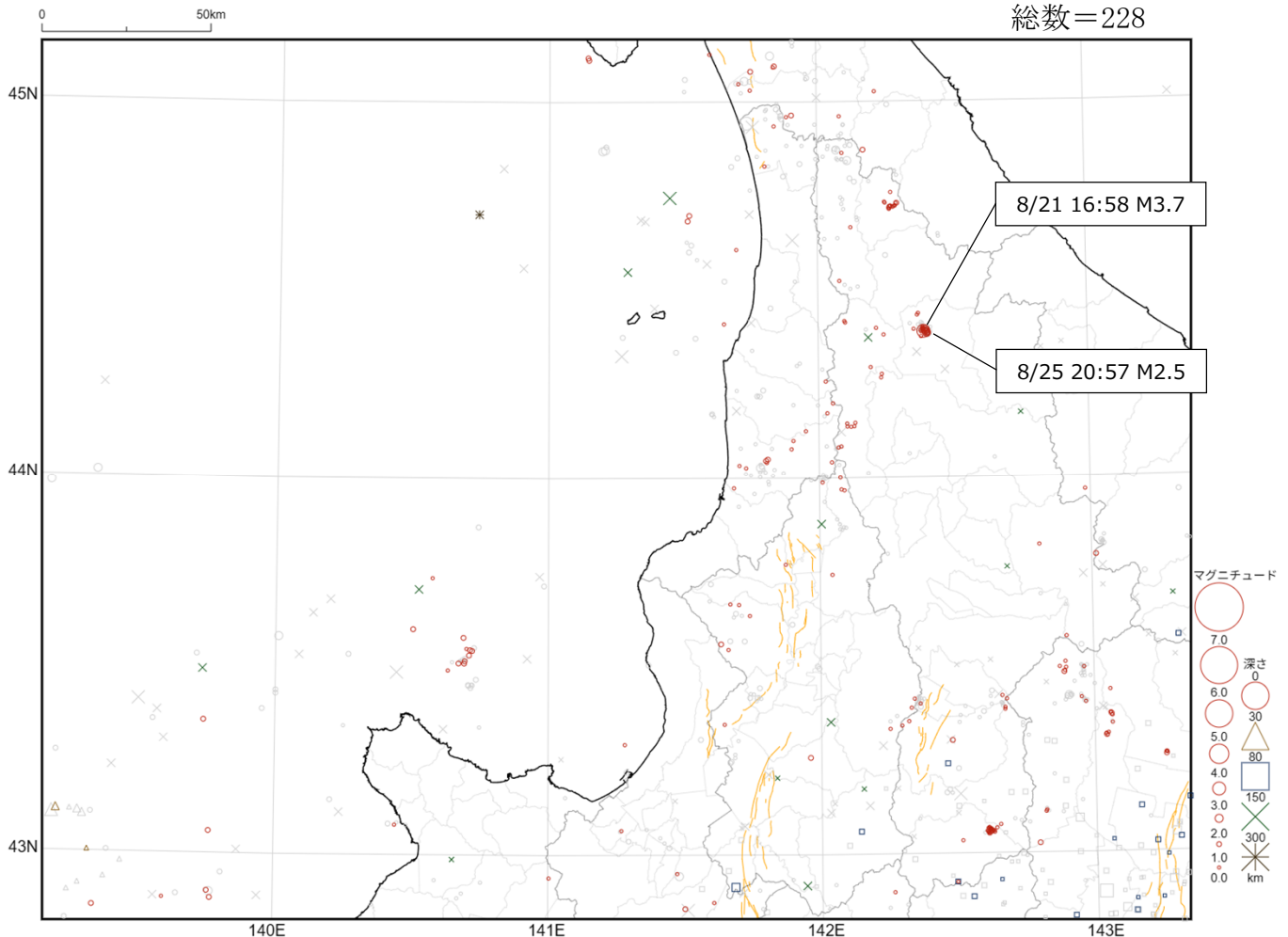
上川・留萌地方の地震活動図

2025年8月

旭川地方気象台

震央分布図

総数=228



- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

地震概況（2025年8月）

この期間、上川・留萌地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回（7月は3回）でした（「上川・留萌地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

12日18時11分、釧路沖の地震（M5.5、深さ22km、震央分布図の範囲外）により、南富良野町で震度1を観測しました。

21日16時58分、上川地方北部の地震（M3.7、深さ4km）により、名寄市で震度2、士別市、美深町、幌加内町で震度1を観測しました。

25日20時57分、上川地方北部の地震（M2.5、ごく浅い）により、名寄市で震度1を観測しました。

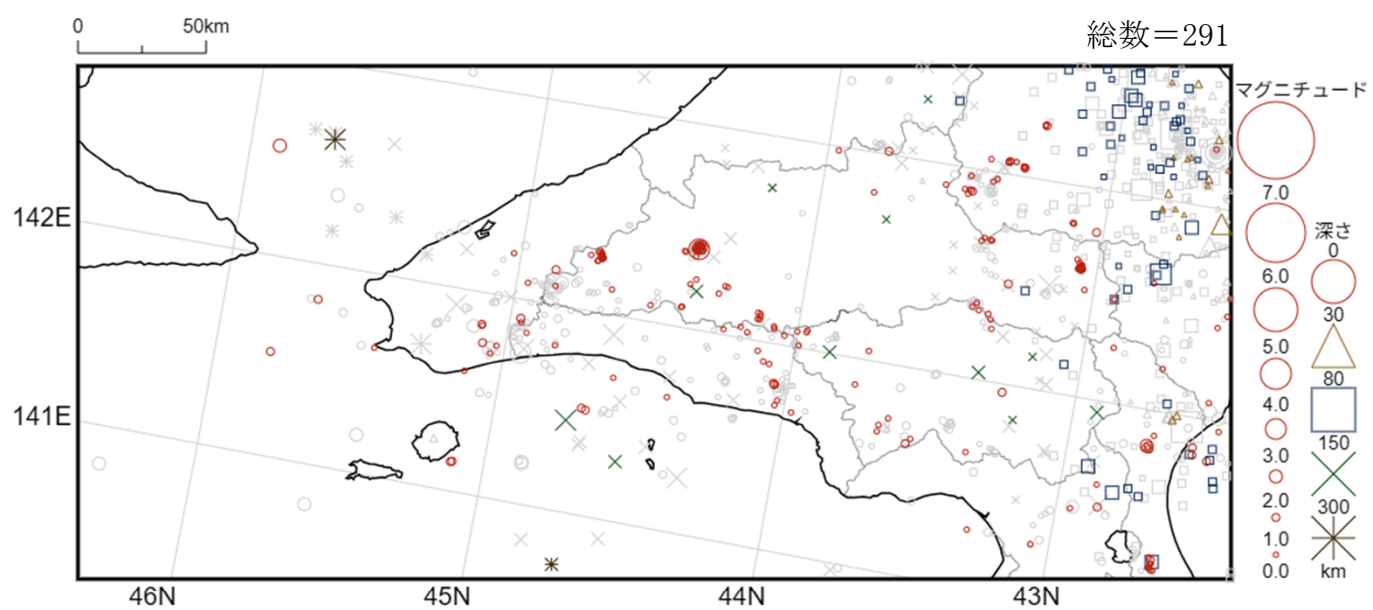
この活動図は、旭川地方気象台のホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/asahikawa/>

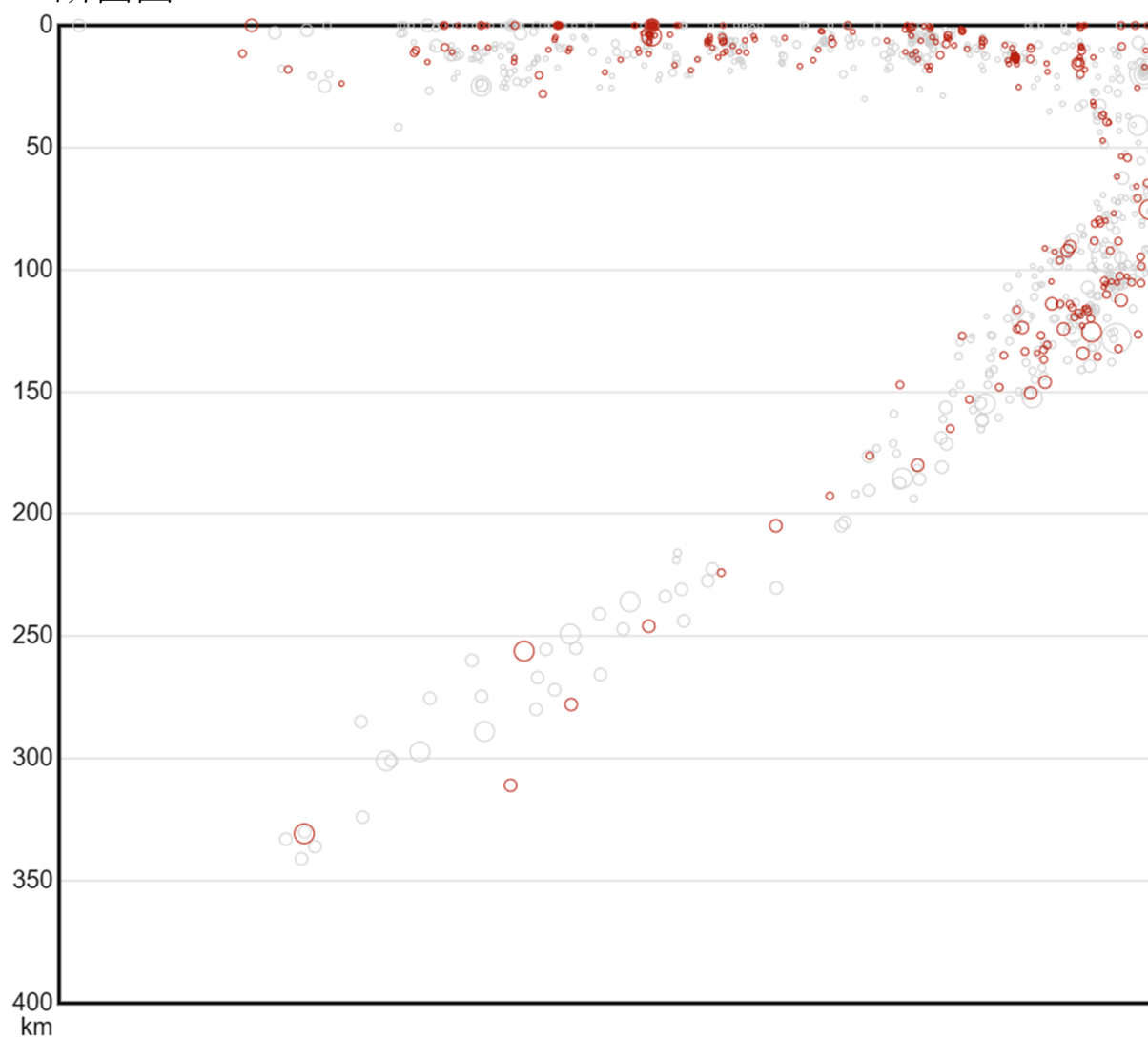
この資料に関する問い合わせ先 旭川地方気象台 TEL 0166-32-7102

2025年8月

震央分布図



断面図

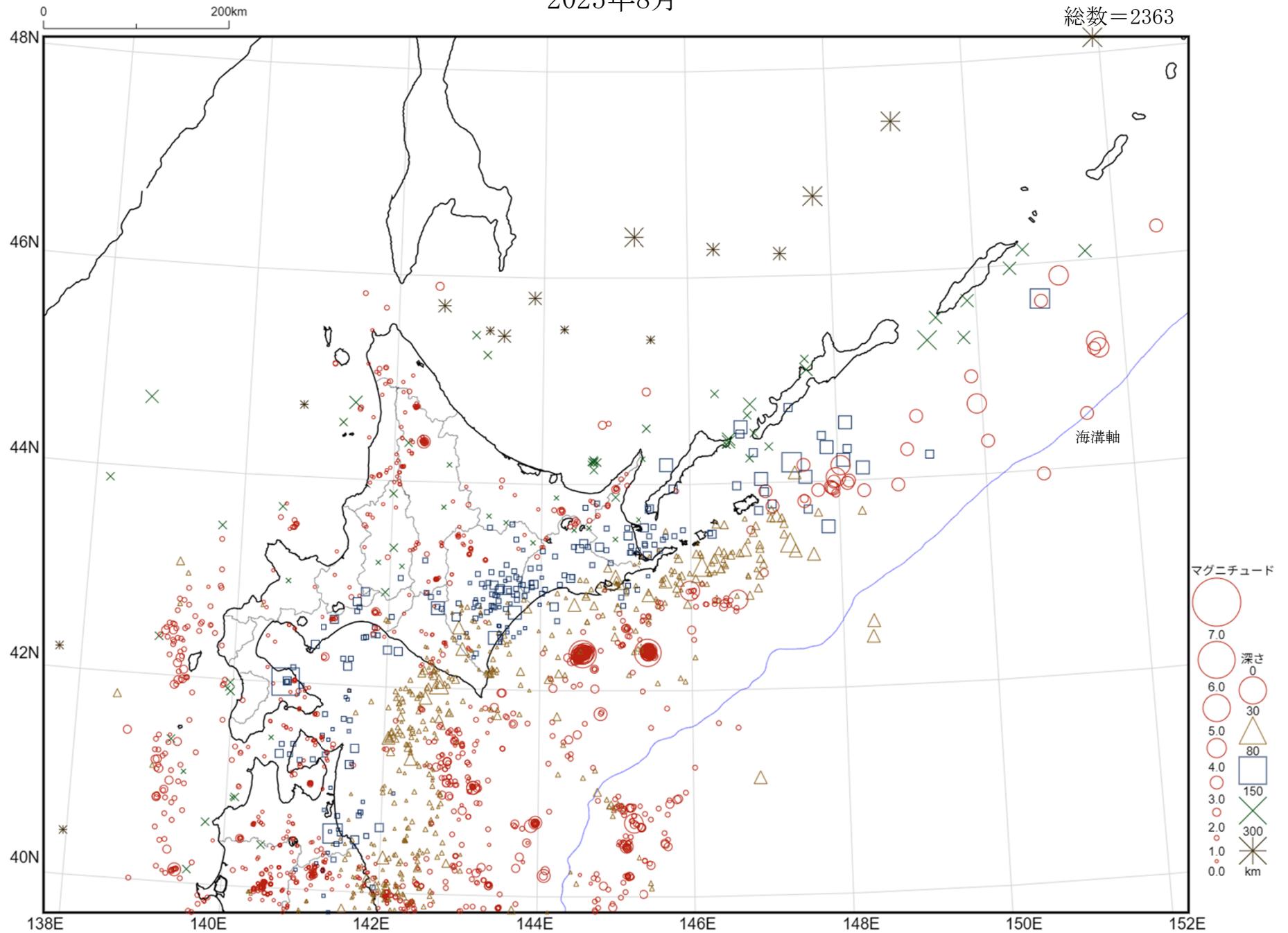


北海道の地震活動図

震央分布図

2025年8月

総数=2363



上川・留萌地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2025年8月)

	年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
1	2025年 8月12日 上川地方	18時11分 震度 1	釧路沖 南富良野町幾寅 (06) 南富良野町役場* (13)	42° 21.4' N	144° 33.4' E	22 k m	M5.5
2	2025年 8月21日 上川地方	16時58分 震度 2 震度 1	上川地方北部 名寄市大通 (19) 名寄市西 5 条* (16) 名寄市風連町* (20) 士別市東 6 条 (10) 美深町西町* (13) 美深町仁字布* (06) 幌加内町朱鞠内* (11)	44° 23.3' N	142° 23.4' E	4 k m	M3.7
3	2025年 8月25日 上川地方	20時57分 震度 1	上川地方北部 名寄市大通 (09) 名寄市西 5 条* (05) 名寄市風連町* (10)	44° 23.1' N	142° 24.1' E	0 k m	M2.5

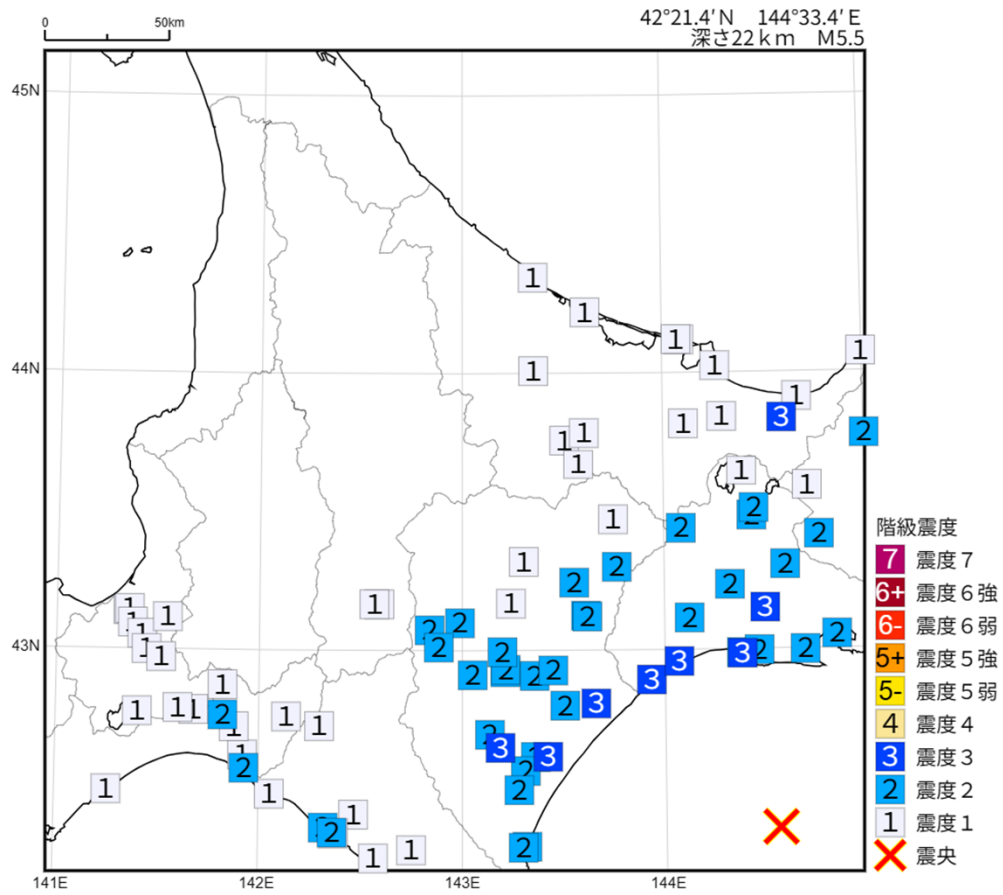
計測震度と震度階級の関係

計測震度	～0.4	0.5～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～4.9	5.0～5.4	5.5～5.9	6.0～6.4	6.5～
震度階級	0	1	2	3	4	5 弱	5 強	6 弱	6 強	7

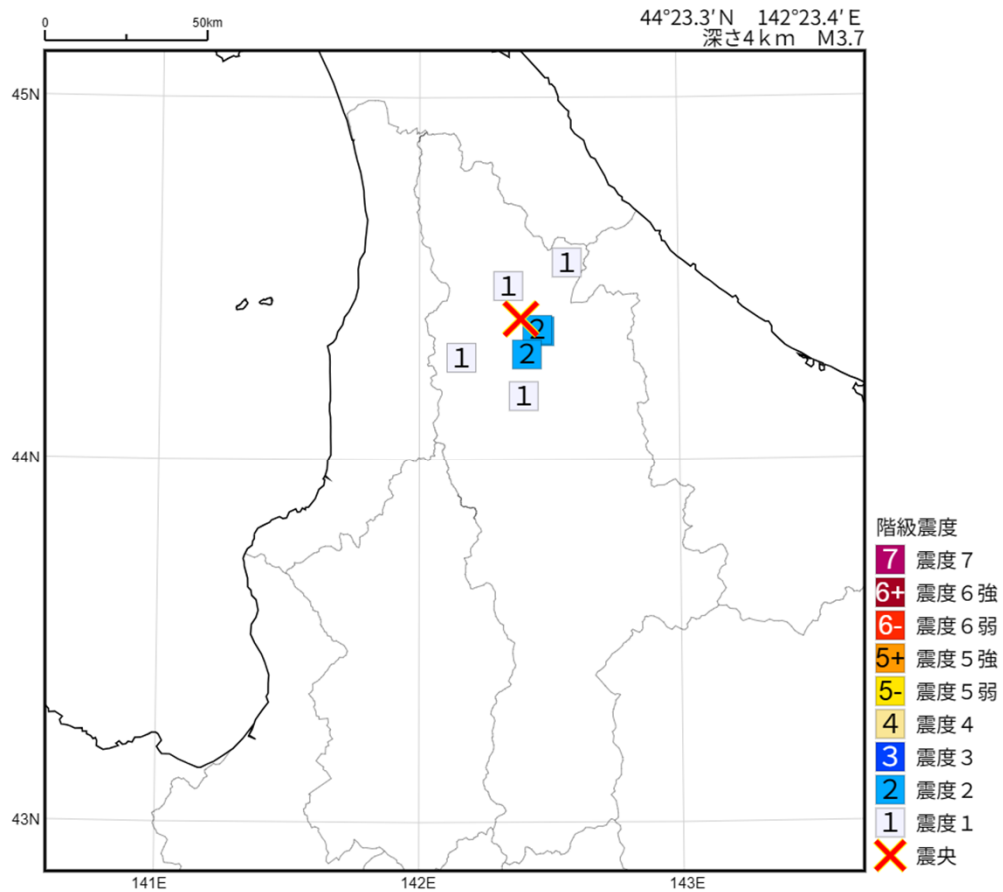
本資料の利用にあたって

- ・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

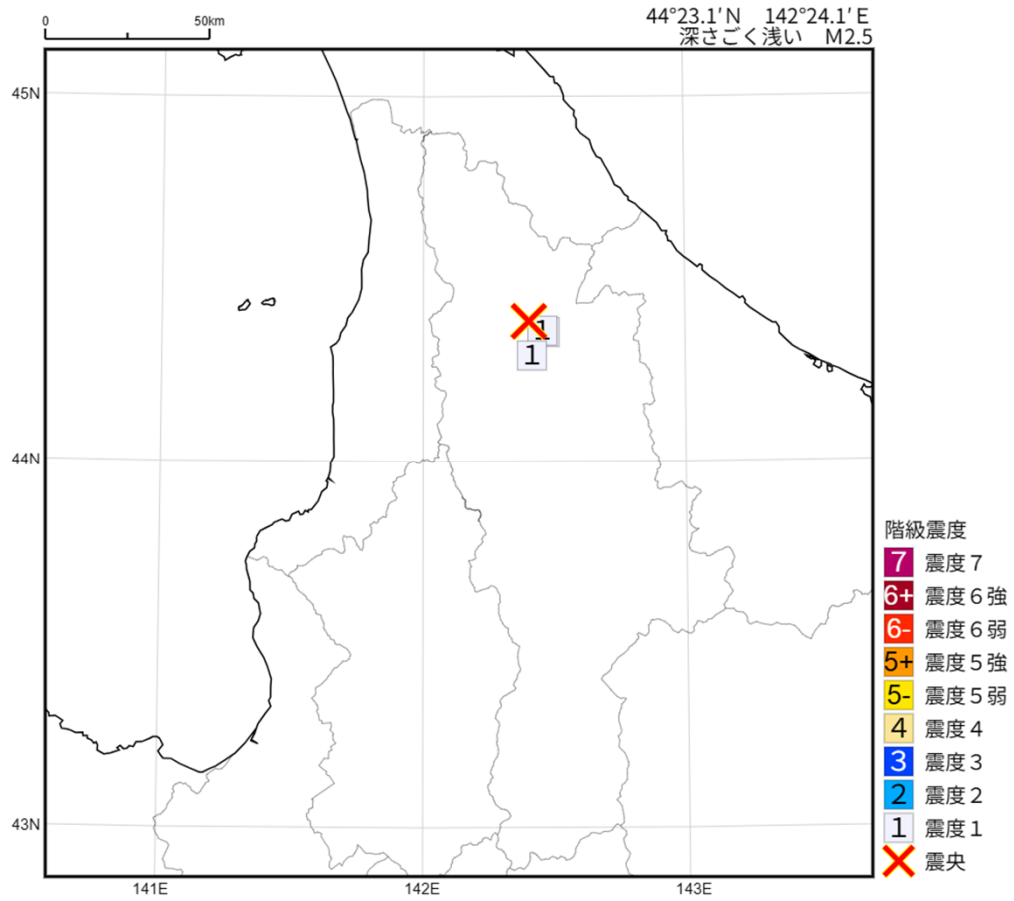
2025年8月12日 18時11分 釧路沖の地震の震度分布図



2025年8月21日 16時58分 上川地方北部の地震の震度分布図



2025年 8月25日 20時57分 上川地方北部の地震の震度分布図



【防災メモ】

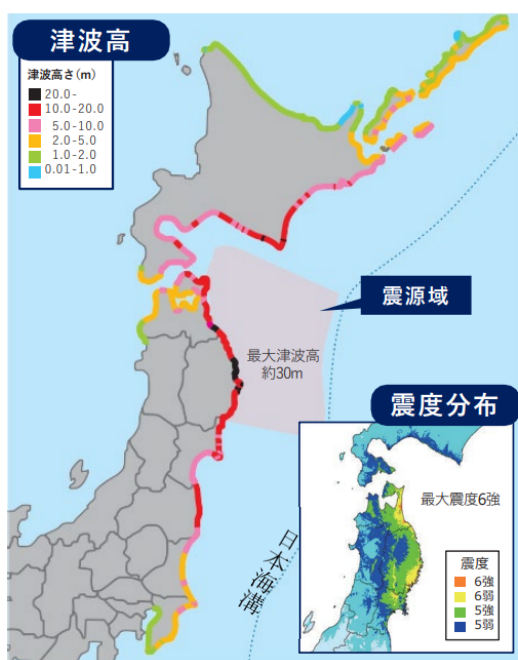
～日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震と 「北海道・三陸沖後発地震注意情報」～

○日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震

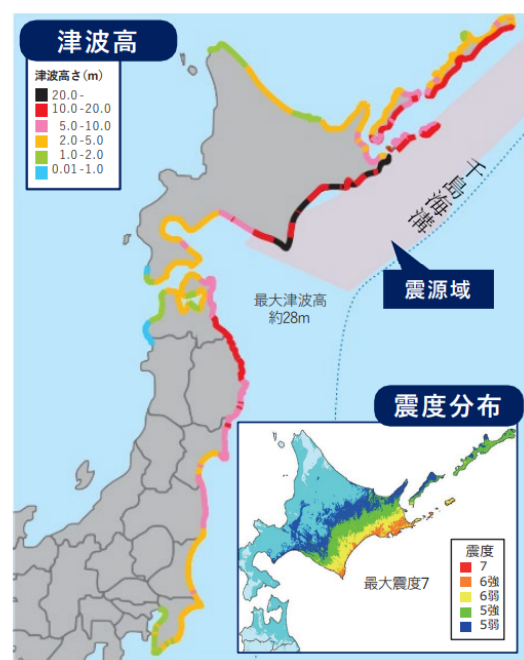
日本海溝・千島海溝沿いの領域では過去に大きな津波を伴う巨大地震が繰り返し発生しています。津波の痕跡調査から、この領域では平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の大津波に匹敵する最大クラスの津波を発生させた巨大地震が約 300～400 年間隔で発生したと推定されており、17 世紀に発生した前回の巨大地震・大津波からの経過時間を考えると、最大クラスの津波を伴う次の巨大地震が切迫していると考えられています。

2021 年 12 月に内閣府が公表した被害想定では、この巨大地震・大津波が発生すると、死者数は全国で最大約 19 万 9 千人と想定されています。特に冬季に発生した場合、北海道では吹雪や積雪により避難に時間を要することや、屋外や寒い屋内での避難は低体温症のリスクが生じるといった積雪寒冷地特有の課題があります。ただし、事前の備えと迅速な避難を行うことで人的被害の 8 割は軽減可能とされています。

日本海溝沿いの地震



千島海溝沿いの地震

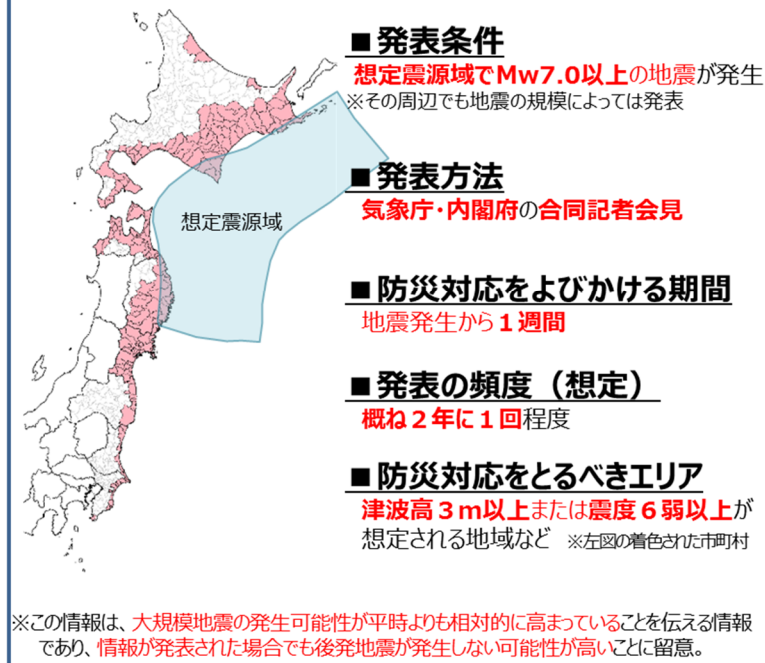


日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震で想定される津波と震度

○北海道・三陸沖後発地震注意情報

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震は、そのほとんどが突発的に発生するため、平時から防災対策を徹底することが重要です。一方で、この領域ではモーメントマグニチュード (Mw) 7 以上の地震が発生した後、数日程度の短い期間においてさらに大きな Mw 8 以上の巨大地震が続いて発生する事例が確認されています。このような事例は、世界的には 100 回に 1 回程度で、実際に発生する確率は低いものの、一人でも多くの人命を救うため、巨大地震が発生する想定震源域およびその周辺で Mw 7 以上の地震が発生した場合に、その後の Mw 8 以上の巨大地震への注意を促す「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表します。

北海道・三陸沖後発地震注意情報



北海道・三陸沖後発地震注意情報の説明

この情報が発表された場合、直ちに避難をする必要はありませんが、防災対応をとるべき市町村にお住まいの方は、普段の生活を続けた上で、1週間程度は地震への備えの再確認、例えば家具等の固定、備蓄品の確認、避難場所・避難経路の確認、家族等の連絡方法の確認、また、津波浸水想定域にお住まいの方は、大きな揺れを感じたり津波警報を見聞きしたりした際に、すぐ避難できるような態勢を整えておくようにしましょう。

巨大地震が発生した場合に、北海道から千葉県にかけての広い範囲で想定される甚大な被害に対し、1週間程度、備えの再確認や迅速な避難態勢の準備を。

枕元に靴等を置いて寝る



すぐに逃げ出せる
態勢での就寝



非常持出品の
常時携帯

インターネット



緊急情報の
取得体制の確保

崩れやすいブロック塀等に
近づかない



想定されるリスクから
身の安全の確保



日頃からの
備えの再確認

地震への備えの再確認と迅速な避難の準備

〇WEB サイト

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」（札幌管区気象台 HP）



<https://www.data.jma.go.jp/sapporo/jishin/kouhatsu.html>

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」普及啓発用動画 (YouTube)



<https://youtu.be/Z3Zou0Z70V4>

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」子供向け動画 (YouTube)



<https://youtu.be/ifDGXKntUik>